

# 「日本のサービスイノベーション 2025」を公表

サービスイノベーションの最前線に立つ全 91 件の事例をまとめ、多くの産業・企業での活用を推進

（公財）日本生産性本部（東京都千代田区、理事長：前田和敬）のサービス産業生産性協議会は、3月25日、「日本のサービスイノベーション 2025」を公表しました。

「日本のサービスイノベーション 2025」は、サービス産業の生産性向上に資するため、当協議会での日本サービス大賞や日本版顧客満足度指数（JCSI）調査などの活動を通じて得られた多様なサービス事例の中から、優れたサービスイノベーションの最前線事例をまとめたものです。

第 5 回 日本サービス大賞委員会委員長を務めた村上輝康氏（産業戦略研究所代表）が監修し、2025年12月9日に発表された「第 5 回 日本サービス大賞」の受賞事例 33 件を含め、事例総数は 91 件に上ります。選定事例一覧は別紙をご参照ください。

人口減少が本格化し、内外に変化の激しい経営環境の下でも、決して受け身になることなく通念を突き破る革新に取り組む大企業や、挑戦的なターゲットを掲げて新たな価値共創にむけ事業を立ち上げているスタートアップなど、いずれもサービス産業の発展に寄与する優れた取り組みです。

事例は、当協議会が運営するホームページ「サービスイノベーション・サファリ」（<https://service-safari.jp/servicei/>）で公開するとともに、事例を学ぶセミナー等を通じて、サービスイノベーションの全面展開にむけ、多くの産業・企業での活用を推進していきます。



## ■監修を務めた村上輝康氏（産業戦略研究所代表）のコメント

日本はますます複雑で厄介な社会的課題に向き合いつつありますが、日本のサービスイノベーションにおいては、生活者の満足度や企業活動の効率性向上を追究するだけでなく、子育て、教育、医療、福祉、人手不足や、インバウンド、地方創生から空家対策まで、多様な社会的課題について企業活動を通じて解決する取り組みが年を追うごとに増加しています。また、デジタルプラットフォームの高度な利用に特化したサービスイノベーションも成熟度を高めており、それが、大企業だけでなく、実力を蓄えたベンチャー企業や、次々に生まれてくる若いスタートアップによっても担われていることを頼もしく思います。

## ■「日本のサービスイノベーション」のブランドロゴマークについて



### 日本のサービスイノベーション

このブランドロゴマークは「SERVICE」を象徴化したデザインです。少数の基本的な図形の組み合わせから、複雑な形状の文字が構成されています。様々な図形の文字が組み合わせることで「SERVICE」となり、新しいコトやサービスが価値共創されることを示すものです。各図形は、それぞれ独自の意味を持ち、相互に作用して全く新しい形状を創り出すことで、改革性、革新性や創造性を表現しています。

サービス産業生産性協議会については参考資料①をご参照ください。

選定にあたっては、「価値共創のサービスモデル（ニコニコ図）」に示される「7つの経営革新」の観点をもとに、各企業の特徴的な取り組みを見出し、それらが広く産業界にとって模範となる事例を選定しています。詳細は参考資料②をご参照ください。

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

公益財団法人日本生産性本部 サービス産業生産性協議会 菅沼、半田、湯浅  
TEL : 03-3511-4010 E-mail : service-js@jpc-net.jp